

あすなろ通信

茅ヶ崎高校校長だより
No.14 平成30年3月2日

矢を射る者

第67回卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。心より祝福したいと思います。

皆さんは、歴史ある茅ヶ崎高校の一員として、伝統を引き継ぎながら、さらに茅高を発展させてくれました。皆さんが卒業した後は、在校生と教職員が力を合わせて、さらにより茅ヶ崎高校を作っていきたいと思えます。

あしたから、皆さんは社会人の仲間入りです。きっと、これからの新しい生活に大きな夢を抱いているのではないのでしょうか。楽しいことがたくさんあると思いますが、これまで以上に辛いことや、大変なこともあるかもしれません。もしかすると、失敗することの方が多いのかもしれません。

そんなとき、どうか今日の旅たちの日の想いと、周りの人たちからの支えを忘れずにいてほしいと思います。何か困ったことがあったら、遠慮せずに茅ヶ崎高校に相談に来てください。茅ヶ崎高校は、皆さんにとって「我が母校」であり、いつでも力になりたいと思えます。卒業生も2万5千人を超えており、きっと皆さんの味方になってくれる筈です。

最後になりますが、私から、いつも卒業生に贈っている大好きな詩を皆さんに贈ります。これからも元気で活躍してください。今まで本当にありがとう。

矢を射る者

武者小路実篤

俺の放つ矢を見よ。
第一の矢はしくじった、
第二の矢もしくじった、
第三の矢もまたしくじった。
第四、第五の矢もしくじった。
だが笑うな。
いつまでもしくじってばかりはいない。
今度こそ、
今度こそと
十年あまり
毎日、毎日



矢を射った。
まだ本物でないにしろ
たまにはあたり出した。
見よ
今度の大きな矢こそ
人類の心の真ただ中を
射あてて見せる
そしてぬけない矢を
俺の放つ矢を見よ。



茅高ニュース ～茅高よ、世の荒波を分けて進め～

茅ヶ崎賞の表彰を行いました

今年度から、目立たない所ではがんばっている生徒を表彰する「茅ヶ崎賞」を作りました。全日制からは、「出会ったことで、自分の豊かな力に気づかせてくれた生徒」を表彰しました。定時制からは、「4年間無欠席で登校した生徒」「クラスや行事を盛り上げてくれた生徒」「体育祭や卒業アルバム作りなどで影から定時制を支えてくれた生徒」の3名の表彰を行いました。

また、裏面に「ある生徒からのメッセージ」を載せました。この生徒には、私から茅ヶ崎賞を贈りたいと思えます。

【全日制】

吹奏楽部が神奈川県高等学校文化連盟「連盟賞」を受賞

11名の3年生を中心として、地域や入学式、卒業式、学校行事などで素晴らしい演奏を披露してくれている吹奏楽部が、神奈川県高等学校文化連盟「連盟賞」を受賞しました。

夏の吹奏楽コンクールでは、一昨年地区大会銅賞、昨年銀賞、今年は金賞を受賞し県大会に出場するなど、確実に力を伸ばしています。これからのますますの活躍に期待したいと思います。受賞、おめでとうございます。

【定時制】

卒業生を送る会で盛り上がりました

1月31日(水)、定時制の恒例行事である「卒業生を送る会」を行いました。3年間あるいは4年間、様々な環境の中でがんばり卒業を迎える生徒たちを、在校生、教職員、PTAの方で祝いました。お餅をついたり、焼きそばなどを食べたりと楽しい時間を過ごしました。PTAからは、フランクフルトとスープを用意していただきました。ご協力ありがとうございました。

ある生徒からのメッセージ

決して私は茅ヶ崎高校に不満があったり、訴えたいことがあるわけではありません。ただ、高校を卒業するまでに、この気持ちを伝えたいと思ったので、手紙を書くことにしました。

私は、日本でとても生活しにくい人間です。全ての人が平等であるはずの国で、自分には何も責任もないのに、他の人と同じように行動することが許されていません。私は、パンセクシュアルというジェンダーです。パンセクシュアルというのは、全性愛ということです。男性、女性、だけでなく、無性、性同一性障害の方も愛することができます。今まで、男性も女性もバイもビアンも好きになったことがあります。

私は、相手の性格や顔、自分との相性で誰かを好きになるのであって、相手の性別は、その人を好きになるかの判断基準に含まれていません。私は自分がパンセクシュアルであることを恥ずかしいだとか、間違っていると思ったことはありません。ですが、中学生の時までは、家族や友人、誰一人としてこのことを言ったことはありませんでした。自分がパンセクシュアルだと気付いた時、一番に「いじめられるかもしれない」と思ってしまったからです。事実、自分の性別のことで、嫌な思いをしたり、偏見をされたことはあります。

ですが、高校生になり、SNS を通じてたくさんのセクシャルマイノリティの人と知り合い、さまざまなことを話し、自分に自信が持てました。それがキッカケとなり、母にカミングアウトすることができました。私の家族は、皆、私のことを理解し、辛いときには支えてくれました。「自分の好きな気持ちを大切にすればいい。」という、母の言葉は今でも私の心に残っています。学校でも、仲の良い友人は、私のセクシャルを知っても、それまでと何も変わらず仲良くしてくれています。私は本当に家族と友人に恵まれていると思っています。ですが、全てのセクシャルマイノリティの人が私のように恵まれた環境にいるわけではありません。「家族に信じてもらえない」「いじめにあい、学校をやめた」という友人が何人もいます。また、SNS 上の友人以外にも怖くてカミングアウトできない、という人も多いです。

セクシャルマイノリティ・性的少数者は、13 人に 1 人の割合でいると言われています。この割合は、左利きの人、AB 型の人の割合とほぼ同じで、単純計算で 1 クラスに 3 人～4 人いるということになります。こんなにも高い割合にもかかわらず、私達は愛する人と結婚することが許されていません。結婚というのは、愛し合う二人が共に人生を送りたいと願うからするものだと思えます。ですが、日本ではそれが許されない人が多くいます。海外の人とも、目の見えない人とも、年の離れた人とも結婚はできるのに。ただ、自分の性別が少ない、というだけで、結婚ができない日本はおかしいと思います。男性と女性でなければ結婚ができない国だから、

いじめにあつてしまったり、カミングアウトができなかったりと、生きづらい環境ができてしまうのだと思います。恵まれた先進国である日本ですが、「日本になんか生まれてこなければ」と思ったことが何度もあります。

私は茅ヶ崎高校がインクルーシブ教育を行っていることは素晴らしいことだと思います。全ての人が等しく教育を受けることができるように、少しずつでも進んでいることを嬉しくも思います。ですが、生徒が男子、女子だけではない、ということも頭の片隅でいいので忘れないでほしいです。きっと、学校のトイレや更衣室を使いたくても使えない生徒がいます。授業中のちょっとした言葉に傷ついているかもしれません。ただでさえ、日本で生きづらい私達です。学校は、そうであってほしくない、と心から願っています。

日本は平等な国ではありません。私は、自分の気持ちを日本に殺されています。そんな風に考えている人間がいる、ということを知ってほしいと思います。

このメッセージをすべての生徒に伝えることを認めてくれてありがとう。学校生活の中で、いや、これまで生きてきた中で、たくさんの困難さや不便さに直面したと思います。「一人ひとりの違いや個性を認めて、理解し、共に生きる」当たり前のことなのですが、今の学校や世の中にはまだまだ足りない部分がたくさんあります。他の人の困難さや痛みが理解できるためには、いろいろな経験が必要です。壁を乗り越えるのではなく、みんなの力を合わせて、一つでも多くの壁や偏見を壊していくことが求められています。

先日終了した平昌冬季五輪でも、こんなことがありました。フリースタイルスキー男子スロープスタイルのガス・ケンワージー（米）さんは、ソチ五輪で銀メダルに輝いた翌年の 2015 年に自らゲイであることを公表しました。以来、米スポーツ界における性的少数者のシンボリック的存在であり続けています。今回の結果は 12 位で、2 大会連続の表彰台には届きませんでしたが、会場で見せたパートナーとの短いキスシーンは、テレビで全米に生中継され、SNS を通じて世界中の話題となりました。「表現することが、壁を破り、偏見を壊すためのたった一つの方法だ」「一番大事なことは、誰もが自分に正直に生きること。ソチ五輪ではやろうとはしなかったけど、今回、僕は僕自身でいられた。性的少数者のコミュニティーを代表できたことを誇りに思う」と語っています。

今年度は、「すべての生徒にとって居心地のよい学校・学級作り」と「困った時に、困ったと言える環境作り」を目標としてきましたが、学校がもっと変わらなくてはいけないことを、あらためて痛感しました。それとともに、茅ヶ崎高校にはやはり素晴らしい仲間がたくさんいるんだ、ということもあらためて実感しました。

勇気を出してメッセージをくれたあなたに、私から茅ヶ崎賞を贈ります。時間のある時に、校長室まで賞状を取りに来てください。